



ミツ又沼ビオトープ

SAITAMA ARAKAWA
MITSUMATANUMA BIOTOP



国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所 あらかわ市民環境センター事務局



車 圏央道川島ICより20分、関越道川越ICより25分
電車・バス 川越駅・上尾駅より東武バス「入間大橋」下車徒歩20分
[川越駅] 東口のりば⑦ 川越06系統 上尾駅西口行
[上尾駅] 西口のりば⑥ 川越06系統 川越駅・埼玉医科大学行

お問い合わせ

国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所
あらかわ市民環境センター事務局
〒350-1124 埼玉県川越市新宿町3-12
Tel. 049-220-0145 (河川環境課)
発行:荒川上流河川事務所 制作:公益財団法人 日本生態系協会

イベント情報も掲載!
ホームページは
ミツ又沼ビオトープ
で検索



学びながら、自然を守る。



自然に親しむこと、知ること、かかわりつづけること。
さまざまななかたちで、人と自然がつながり理解を深めることで
自然環境は守られ、未来へと続いていきます。

ミツ又沼ビオトープは、散策はもちろんのこと
ボランティア活動、学校の環境学習、
企業のSDGsへの貢献、研修など
どなたでも、自然に触れながら、自然を学べる場です。



もともとは、川の合流点。

奥秩父の山々から水を運んでくる荒川。
埼玉県を横断するこの川の中ほどで
飯能市の大持山からそそぐ入間川と
かつて合流した場所がミツ又沼です。
河川改修で川の流れは変わりましたが
昔の合流地点は湿地として残りました。



川の跡というこの場所は
沼、湿地、草地、樹林などの多様な環境に
多くの生きものたちがくらす
生物多様性豊かな空間となっています。

地域の人々の、意思。

この自然環境は、たまたま残ったものではありません。
地域の人々や環境保護団体が、貴重な自然を残したい想いから
荒川上流河川事務所に協力をもとめたことで、土地が取得されました。
「ミツ又沼ビオトープ」と名付けられたこの場所は
現在も市民、行政、専門家が協力しあいながら守り続けています。





「自然を支える」を、体験してみませんか。

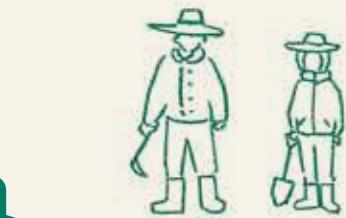
ミツ又沼ビオトープの自然環境の維持に欠かせないもののひとつとして、ヨシの刈り取りがあります。この刈り取りには、湿地の維持や、春の植物の発芽を促すなど、さまざまな効果があります。ヨシ刈り以外にも、一年を通して外来植物の抜き取りなどを行っています。ぜひ実際に体験しながら、ミツ又沼の四季を感じてみてください。



背丈より
ずっと高いヨシを
刈りとり運びます

例えば冬にヨシを刈ると

こんな循環が生まれます



湿地に入る
準備を整えて



刈ったことで
地面に日が当たり



天候などのタイミングが
合う時は、刈らずに野焼きをすることもあります。

日本の湿地は今!

昔は
日本のいたる所に
湿地がありました。生物
多様性の宝庫と言われる湿地ですが
明治・大正時代から比べると約60%が開発
などで失われてしまいました。

日本の湿地 約60%減
出典：国土地理院「日本全国の
湿地面積の変化の調査結果」



とても目の良い猛禽類は、
空の高いところからでも生きものたちを見つけます。

やがて春には小さな
植物が芽を出し



ハナムグラ

エキサイゼリ

どちらも小さな湿性植物。荒川でも限られた場所にのみ生育しています。

見通しがよくなると
鳥が虫を食べに来たり
猛禽類が姿を現します

新しくスッと伸びたヨシに
カヤネズミは巣を作ります

カヤネズミ



学校や家でも
体験できる!



近隣の学校などと、荒川にもともとある在来の草花やハンノキを育て、植え戻しています。

人がかかり 維持する

かつて川は氾濫するなどしてヨシが流され、湿地の植生が保たれていました。川の流れが変わった今は、このような「かく乱」は少くなり、人が手を入れることで湿地の環境と生きものの暮らしを守っています。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



体験内容は、HPをチェック!

個人・企業・学校などに応じた体験ができます
団体は体験内容の希望をご相談ください

Start!



9:00
オリエンテーション



木道を抜け
目的地へ



9:10
外来種を刈ります!



13:00
食後は自然観察



14:00
今日の振り返り



お疲れさまでした!